

開催地名	大阪府大阪狭山市
開催日時	令和6年1月14日（日） 10:00～11:30
開催場所	大阪狭山市立コミュニティセンター
語り部	菅井 茂（宮城県仙台市）
参加者	地域住民、自主防災組織、自治会等 49名
開催経緯	本市は、南海トラフ巨大地震発生時、震度6弱を想定され、上町断層帯による直下地震では、震度7が想定されている。しかしながら、過去に大きな災害経験等がなく、災害についての意識高揚や防災への取組みの推進が課題となっている。
内容	<p style="text-align: center;">東日本大震災から学んだ地域防災について</p> <p>（1）避難所について</p> <p>南材地区には3ヶ所の避難場所が設けられ、総勢1700名もの避難者が集まった。その中でも南材小学校は震災当日（3月11日）の夕方から避難される人が増え、避難所開設にあたりまずは運営委員会を作り、備蓄のクラッカーと水を配給し受け入れ体制を整えた。非常に多くの人が集まったので、避難所でのルールを決める必要があった。起床時間から食事の時間等を決めた。12日の朝、避難者に避難所におけるルール事項を説明した。その中でも特に良かった事は『禁酒』である。他の地域の避難所ではお酒が許されていた所もあったが、そこでは避難生活が長引くほど特に飲酒した人のトラブルが多かったようである。そのおかげもあってか、秩序やモラルが保たれ大きなトラブルは見受けられなかった。教訓として、いち早く運営委員会を設置し担当者を決めることで運営がしやすくなる。一方、避難者の地域分けをしていなかったのが安否確認に時間を要し、別の問題点も浮き彫りとなった。空き家泥棒も必ず発生するので、そういったことに対応する人（担当）も決めておけば良かったと学び、現在はもっと細かく役割分担するようにしている。</p> <p>食事面においては、12日の朝は1200人分のアルファ米おにぎりを提供した。その日の午後になると自宅や職場に様子を見に行く人も出てきており、体育館内の場所の整理が幾らかできるようになっていた。その後、備蓄庫の残りがほとんど空っぽになってきたが周りからの差し入れによって、なんとか閉鎖まで食事を提供することができた。</p> <p>また、コミュニティセンターについては、災害時には要援護者や災害弱者の方々のための避難所になる施設とした。小・中学校などの集団避難所とは違い、例えば過去に問題点として浮き彫りになった、非常食の備蓄問題や防災面強化の問題、災害弱者に対する扱いなど、完璧にクリアできてはいないが対策は講じられている。ただ今後もより一層、ブラッシュアップは必要不可欠である。</p>

(2) 防災訓練について

町内会で防災訓練を行う際は、担当を割り当てており基本、担当は変わらずその部門に精通してもらえよう考えている。

小学校で子供の引き取り訓練なども実施し、小・中学校と協力しながら今後も継続して防災について取り組む必要がある。

(3) 今後の防災意識について

地域防災では、自分で自分の身を守る『自助』、地域の人々で共に助け合う『共助』が必要不可欠である。そのためには、自主防災連合会と各種団体及び各機関（区役所、消防、消防団など）との連携が大切である。総合防災訓練は地域と家庭・学校が一体となっていく行事なので、協力して開催し続けることが大切である。もちろん個人で今後の防災意識について考え直すことも必要であるが、訓練以上のことは実際の現場では行えないのが事実であるためだ。



開催地より

東日本大震災の当時の状況や避難所運営、防災訓練、現在の状況など、被災地の状況を踏まえた内容となっており、参加者の関心が高かった。この講演を受けて、学校や地域等と連携して、図上訓練や避難訓練などの実践的な訓練を強化していきたい。